

本との出会いを楽しむ 第15回

畠中 恵のファンですけど、なにか？

理工学研究科（自然科学系）教授 笹川 和彦



私にとって読書は専ら、就寝前の睡眠導入と出張往復の暇つぶしのためのものです。といっても、私にとってなくてはならない生活の一部となっています。読んでいて楽しい本があると、早くベッドに入って寝る前のわずかな時間をわくわくして過ごすことができますし、出張往復のともすればイライラしそうな時間もリラックスして過ごすことができます。こういった目的で読書をするので、どうしても文庫本を好んで買います。後で紹介する好きな作家の本も文庫本になるまで我慢します。つまり、ポケットに入る精神安定剤のような存在です。

出張先の駅や生協の本屋さんの店頭に並んでいる文庫本の表紙を眺め、目にとまった本の裏表紙のあらすじをざっとみて文庫本を漁ります。ですから意識的ではないのですが、流行の本を買うことが多くなります。ジャンルのには推理小説や歴史小説、本当の精神安定のための思考ハウツー本が結果的に多くなっているようです。

そのなかで私は、畠中 恵さんの時代物の小説「しゃばけ」シリーズ、「まんまこと」シリーズが好きです。非常にかわいらしいカバーに内容もファンタジーなものなので、おじさんが紹介するのもたいていそう恥ずかしいのですが、振り返るとここ数年、シリーズの続き物が単行本で出版されるごとに文

庫化するのを待ち望んでいることに気づきました。

「しゃばけ」シリーズは、江戸時代の薬問屋の長崎屋が舞台です。若旦那と長崎屋の離れに居候するあやかし（妖怪）たちが主人公です。「まんまこと」シリーズは、これも江戸時代の町名主の息子麻之助とその友たちが主人公です。いずれも江戸の町に起こるいろんな問題・事件を解決していくものがたりです。NHKやフジテレビでドラマ化されているので、観たことがある人も多いかもかもしれません。あやかしの不思議な力や麻之助の鋭い推理力もさることながら、それらを引き出すための強い友情や愛情が描かれていると思います。

推理小説であり、詳細な調査に基づく歴史小説でもあり、ファンタジー小説でもあり、ヒューマン小説でもある、私の好きな小説の要素を全て含んでいるので、恥ずかしさにも負けずつついつい買ってしまうのでしょう。日頃の面倒事から全く現実逃避してリラックスするために、私にはなくてはならないものになってしまったようです。

実は生協の店員さんにも私が畠中 恵さんのファンであることがばれています。新しい小説が文庫本になると知らせてくれたりします。また新しく続き物が文庫本になったら、こっそり教えてくださいね。

（ささがわ かずひこ）